

---

日付: 2007-01-03 タイトル: 研究セミナー内容

第2研究委員会 地域生活支援 ◆「もしも施設が消えたなら・・・」施設を前提とした障害者支援からの発想の転換、これが、第2がこのテーマを選んだ理由です。制度が変わっても、現在の通所施設と入所施設を中心とする知的障害者支援の枠組みそのものは温存されそうです。入所施設を閉鎖したとか、通所施設の建物を壊したとかいう話は今のところ聞きませんし、なんとか現在の建物と人をフルに活用して、より良い支援(良い事業?良い経営?)をするんだ、という知恵比べがどこでも行われているはず。しかし、そもそも施設という形態は、当事者である障害者の視点から見たときに、前提とされるべきカタチなのでしょうか。施設内で繰り返される多くの虐待事件に象徴される施設の負の側面もたびたび取り上げられるところ。通所・入所を含めた「施設」という枠組みから少なくとも思考の上で自由になること、イメージの中だけでも施設からはフリーな立場から新しい支援のあり方を柔軟に発想してみることが(そして、それは障害者自身の立場から発想するということにつながるはず、ですが)、この何とも言えない、現在の閉塞感を打破するために必要なのではないのでしょうか。そこで、今回の第2分科会では、通所施設・入所施設を前提としない障害者の地域生活支援はどういったら可能になるのか、噛み砕けば「もしも施設が消えたなら、障害者の暮らしはどうなっていくのか」ということを参加者一人 -6 - ひとりに事前にイメージしていただき、当日は参加者の方からの発言を中心に、分科会を進行させていくこととしました。施設職員の方も、そうではない方も、全国の仲間のさまざまな考え方やアイデアに触れ、新たな展望を明るく語れる分科会にしていきたいと思えます。ふるってご参加ください。＜スケジュール＞ 9:30 趣旨説明 9:45 講演「(仮題)障害者が地域で暮らす際に本当に『施設』は必要か」石渡 和実氏(東洋英和女学院大学) 12:00 昼食休憩 13:00 シンポジウム「もしも施設が消えたなら・・・」シンポジスト 石渡 和実氏(東洋英和女学院大学) 稲木 俊夫氏(湘南の風・神奈川) その他交渉中 コーディネーター 赤平 守氏(同愛会・神奈川) 15:30 終了

---

Copyright © NPO法人全国障害者生活支援研究会 All Right Reserved